

④介護状態に関する因子構造モデルについて

認知障害、ADL、問題行動を潜在変数とする二次因子モデルのデータへの適合度は、GFIが0.902、AGFIが0.871であった。二次因子「介護状態」から「認知障害」に向かうパス係数は0.987、「ADL」が0.571、「問題行動」が0.638であった（図3-4）。

以上の結果から、介護状態を上位概念に認知障害、ADL、問題行動を下位概念として把握する（以下、「簡易介護状態測定尺度」と呼称）といった構成概念妥当性がほぼ支持されたものと判断された。

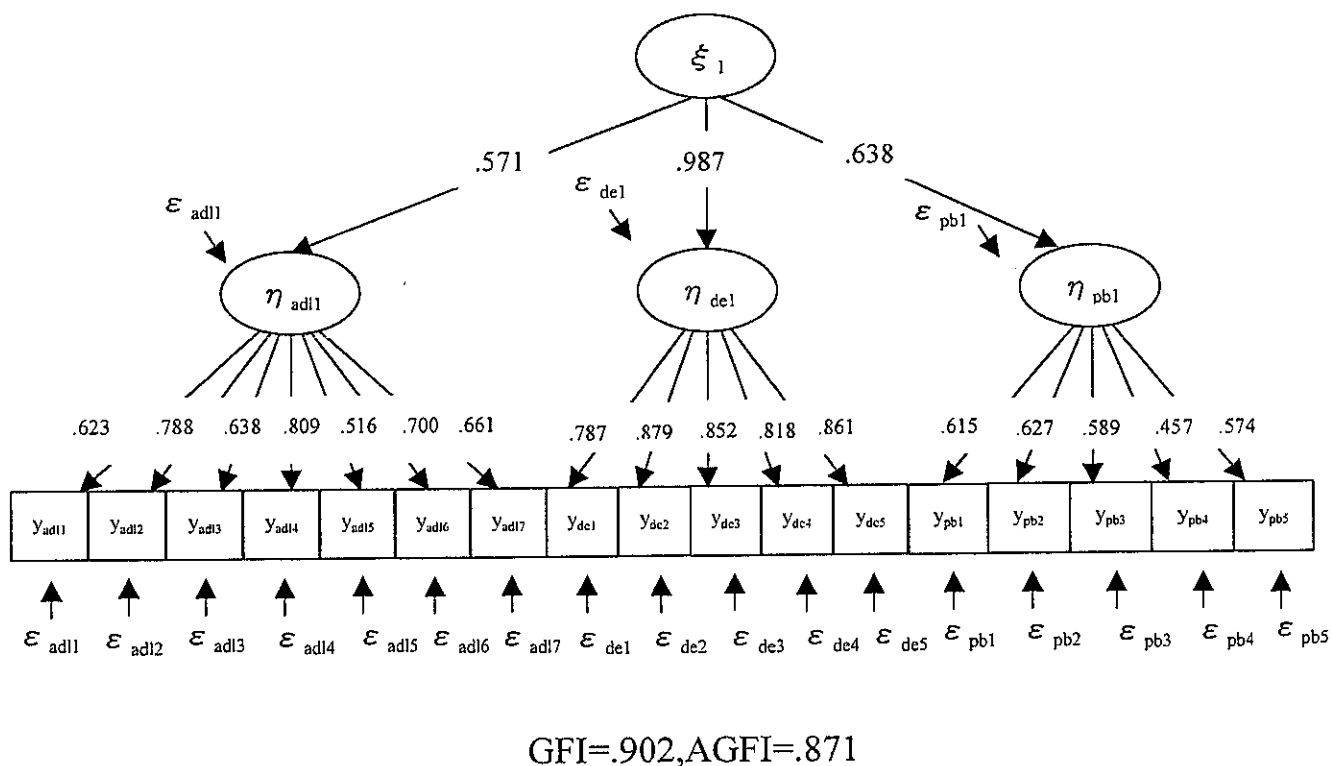


図3-4 量的要介護度に関する因子構造モデル（標準解）

2) 介護状態度の信頼性の検討

「簡易介護状態測定尺度」25項目全体を用いたときのクロンバックの α 信頼性係数は0.891であった。またその下位概念である認知障害、ADL、問題行動のクロンバックの α 信頼性係数は、それぞれ0.923、0.854、0.794となっていた。

以上の結果は、介護状態の測定に関する信頼性を支持するものである。

3) 要介護の程度（二次判定結果）と介護状態度との関連性

要介護の程度（二次判定結果）別に、一元配置分散分析で介護状態度の平均値の差の検定を行ったところ（表3-1）、「要支援群」（12,607名）の平均は2.36点（95%信頼区間2.33点から2.40点）、「要介護1群」（31,060名）の平均は6.02点（95%信頼区間5.98点から6.07点）、「要介護2群」（35,803名）の平均は9.92点（95%信頼区間9.88点から9.97点）、「要介護3群ランク5」（36,740名）の平均は12.41点（95%信頼区間12.36点から12.45点）、「要介護4群」（22,312名）の平均は13.50点（95%信頼区間13.45点から13.55点）、「要介護5群」（13,540名）の平均は14.12点（95%信頼区間14.06点から14.18点）で、統計学的に有意な差が認められた。それは多重比較においてもすべての群間において同様の傾向を示した。

表3-1 要介護の程度（二次判定結果）別にみた介護状態の程度

| | 人数 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値の95%信頼区間 | |
|-------|-------|------|------|-------------|-------|
| | | | | 下限 | 上限 |
| 要支援群 | 12607 | 2.4 | 1.95 | 2.33 | 2.40 |
| 要介護1群 | 31060 | 6.0 | 3.94 | 5.98 | 6.07 |
| 要介護2群 | 35803 | 9.9 | 4.42 | 9.88 | 9.97 |
| 要介護3群 | 36740 | 12.4 | 4.11 | 12.36 | 12.45 |
| 要介護4群 | 22312 | 13.5 | 3.64 | 13.45 | 13.55 |
| 要介護5群 | 13540 | 14.1 | 3.47 | 14.06 | 14.18 |

以上の結果より、介護状態度の各ランクにおける代表値を、要支援群は「2点」、要介護1群は「6点」、要介護2群は「9点」、要介護3群は「12点」、要介護4群は「13点」、要介護5群は「14点」で代表させるものとした。

4) 介護状態別に見た、認知障害、ADL、問題行動の得点における最頻値

①「介護状態2点群」(2,821名)での認知障害、ADL、問題行動における得点の最頻値は、認知障害が「0点」(99.0%)、ADLが「2点」(56.3%)、問題行動が「0点」(56.8%)であった(図3-5~3-7)。それらの得点を加算すると2点で、これは介護状態に対応していた。ADLにおいて発現頻度が上位2位までに属する項目は、「5. 部屋の掃除」(「できない」が75.0%)と「3. 体を洗う」(「できない」が42.3%)となっていた(図3-8~3-10)

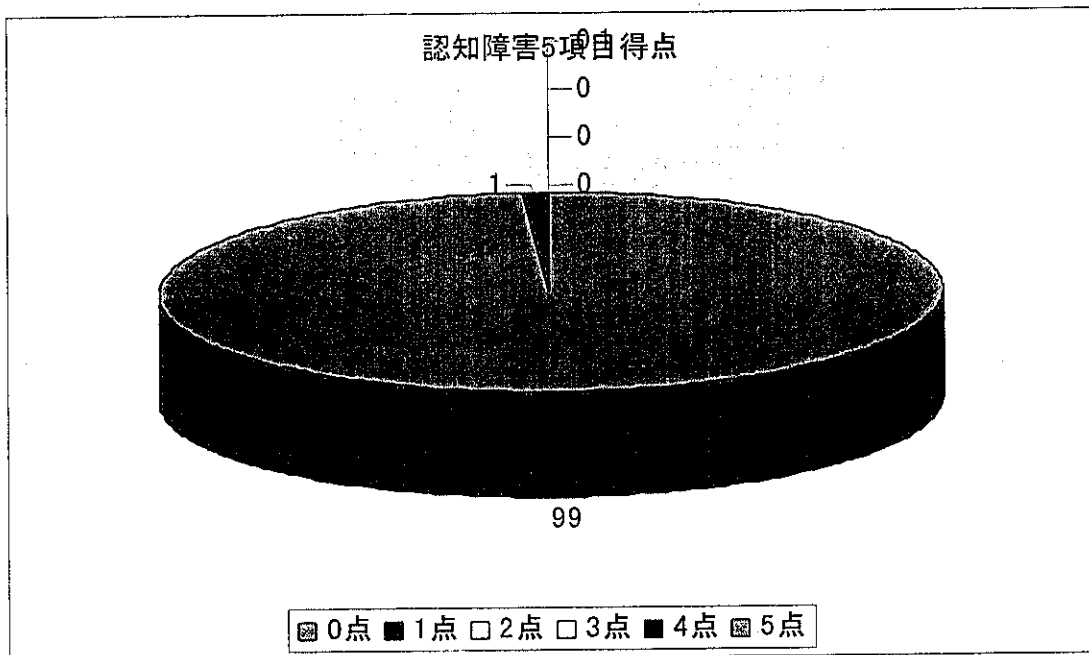


図3-5 「介護状態2点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

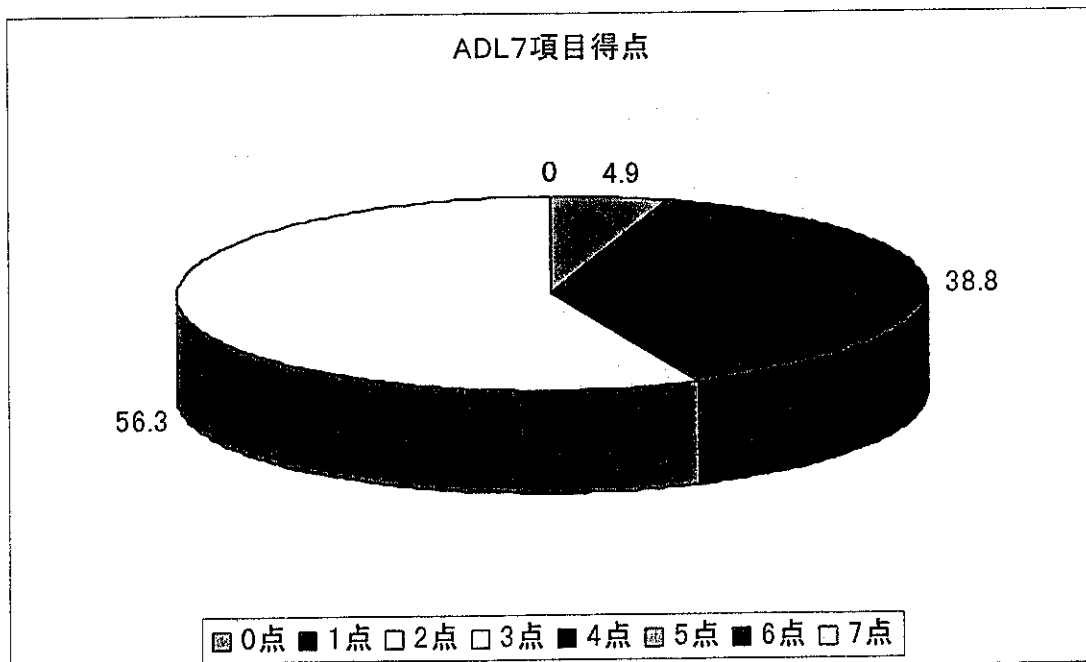


図3-6 「介護状態2点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

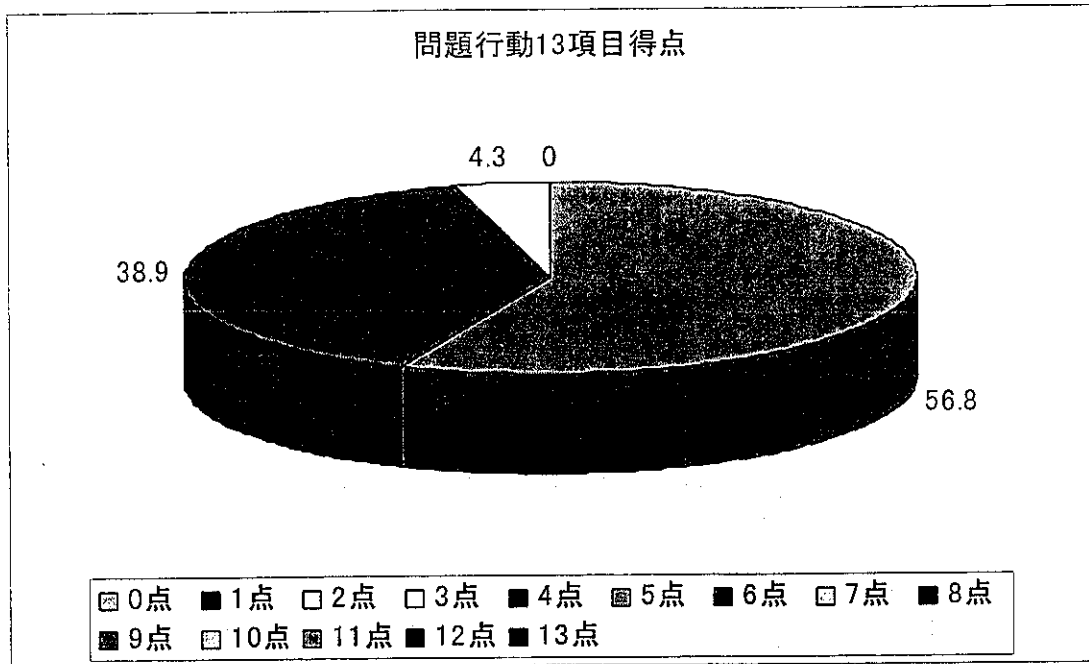


図3-7 「介護状態2点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

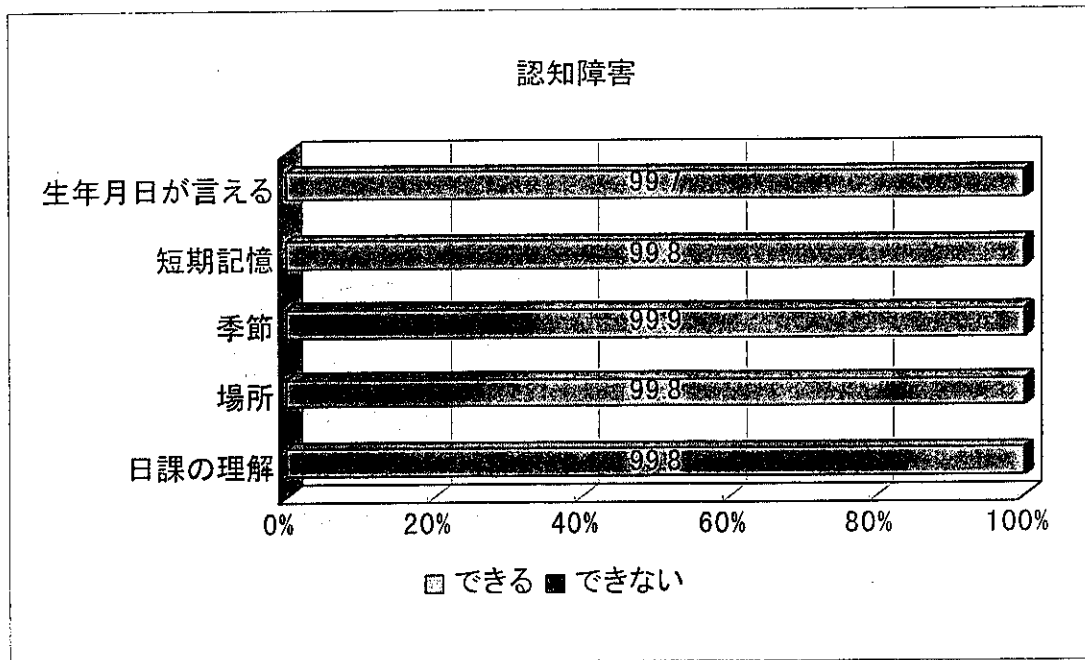


図3-8 「介護状態2点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

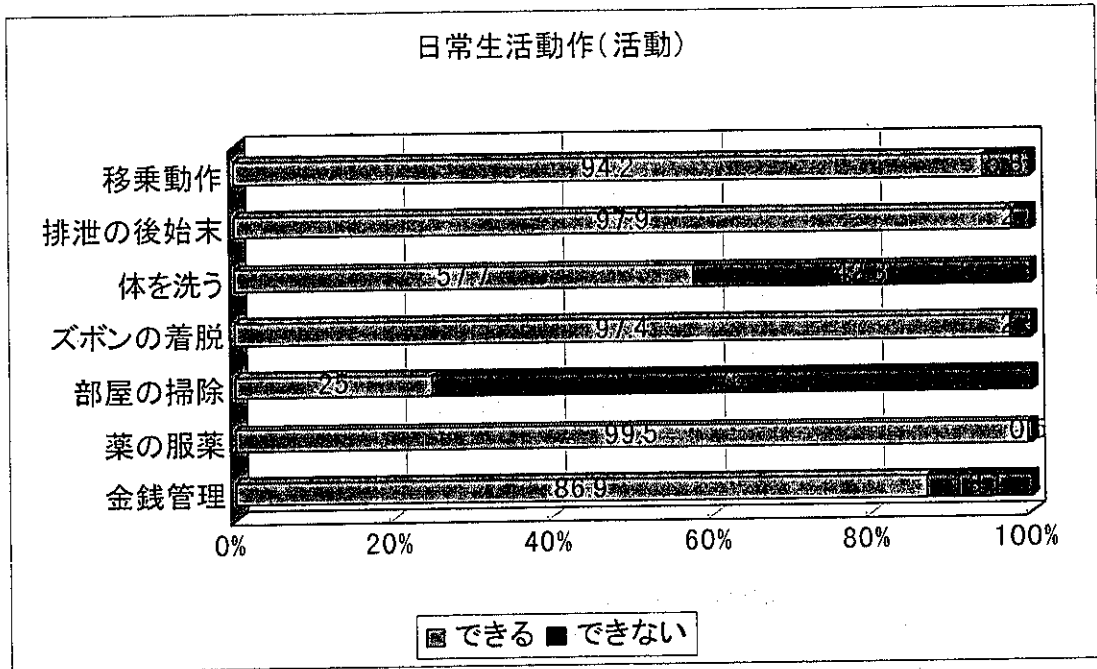


図3-9 「介護状態2点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

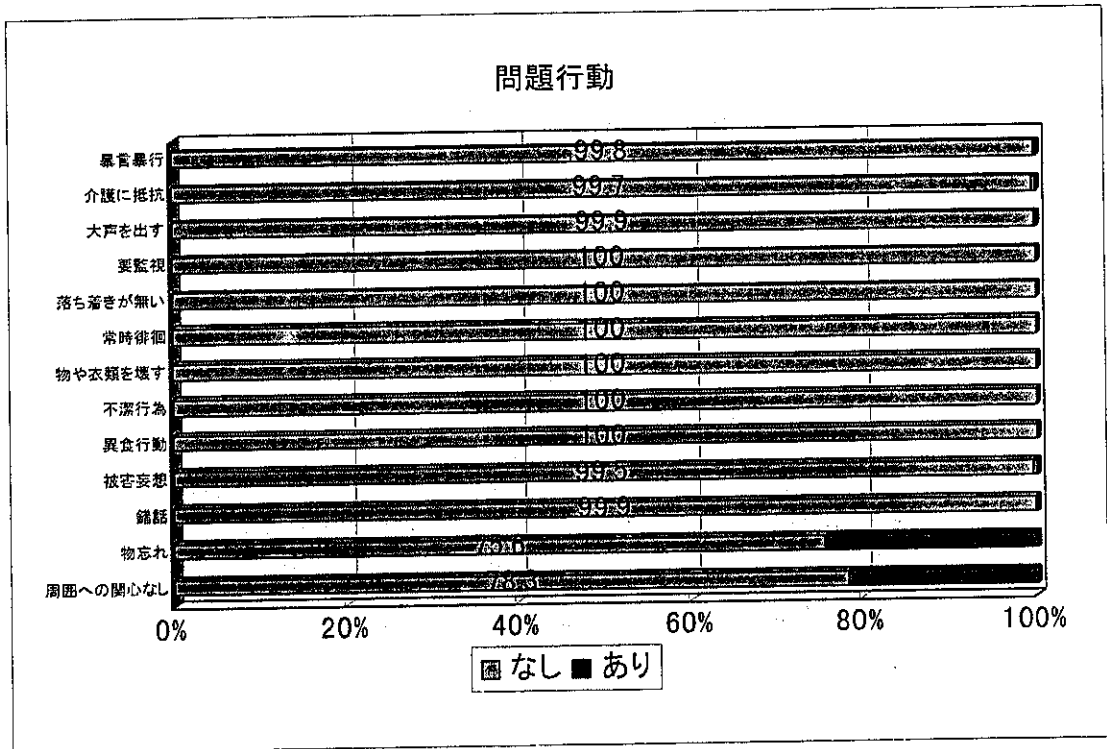


図3-10 「介護状態2点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

②「介護状態6点群」（3,325名）での認知障害、ADL、問題行動における得点の最頻値は、認知障害が「0点」（83.7%）、ADLが「5点」（29.2%）、問題行動が「1点」（33.6%）であった（図3-11～3-13）。それらの得点を加算すると6点で、これは量的介護度に対応していた。ADLにおいて発現頻度が上位5位までに属していた項目は、「5. 部屋の掃除」（「できない」が89.8%）、「3. 体を洗う」（「できない」が83.1%）、「7. 金銭の管理」（「できない」が78.3%）、「6. 薬の服薬」（「できない」が76.3%）、「4. ズボン等の着脱」（「できない」が44.2%）であった。問題行動において発現頻度が上位1位に属する項目は、「12. 物忘れがひどい」（「あり」が49.1%）であった（図3-14～3-16）。

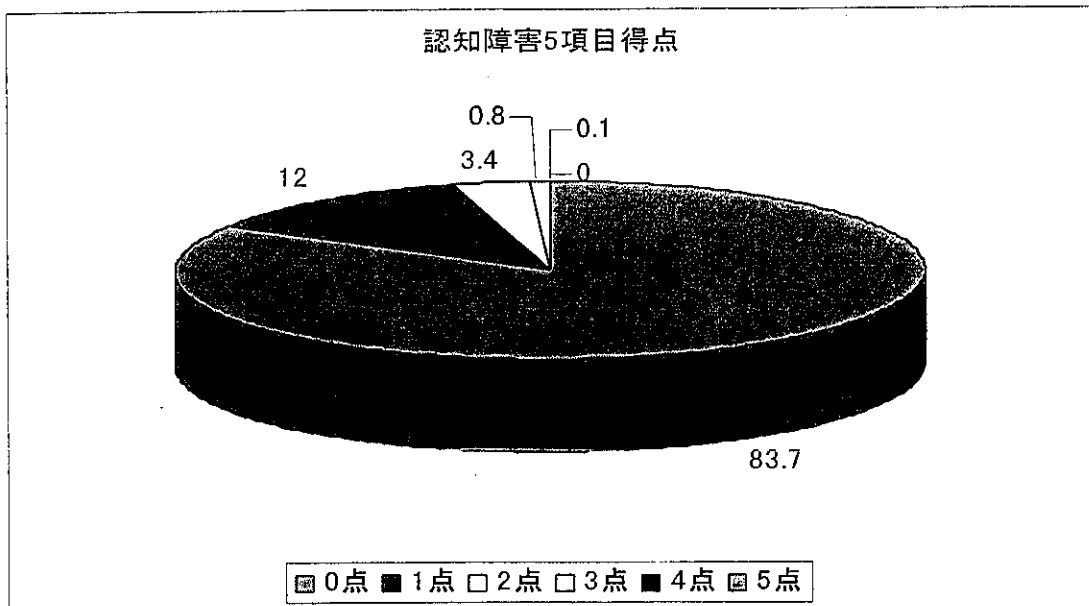


図3-11 「介護状態6点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

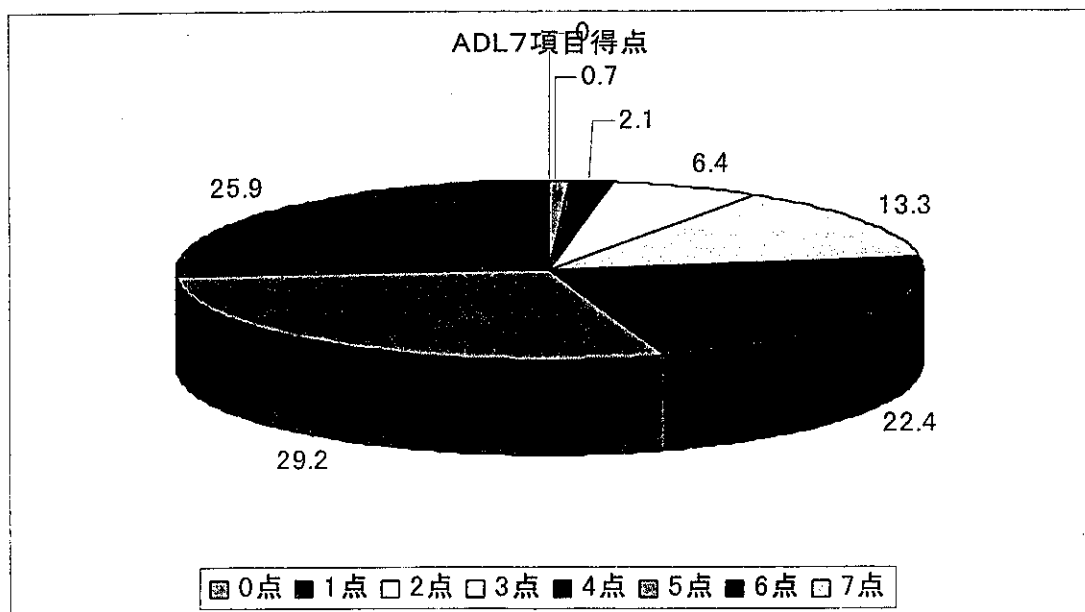


図3-12 「介護状態6点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

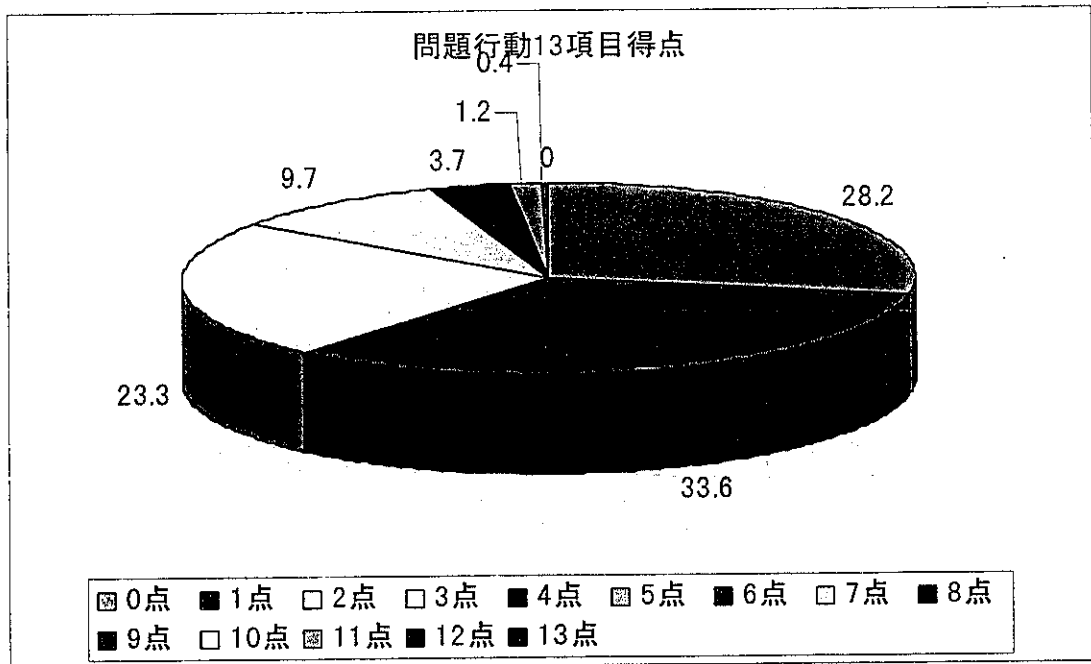


図3-13 「介護状態6点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

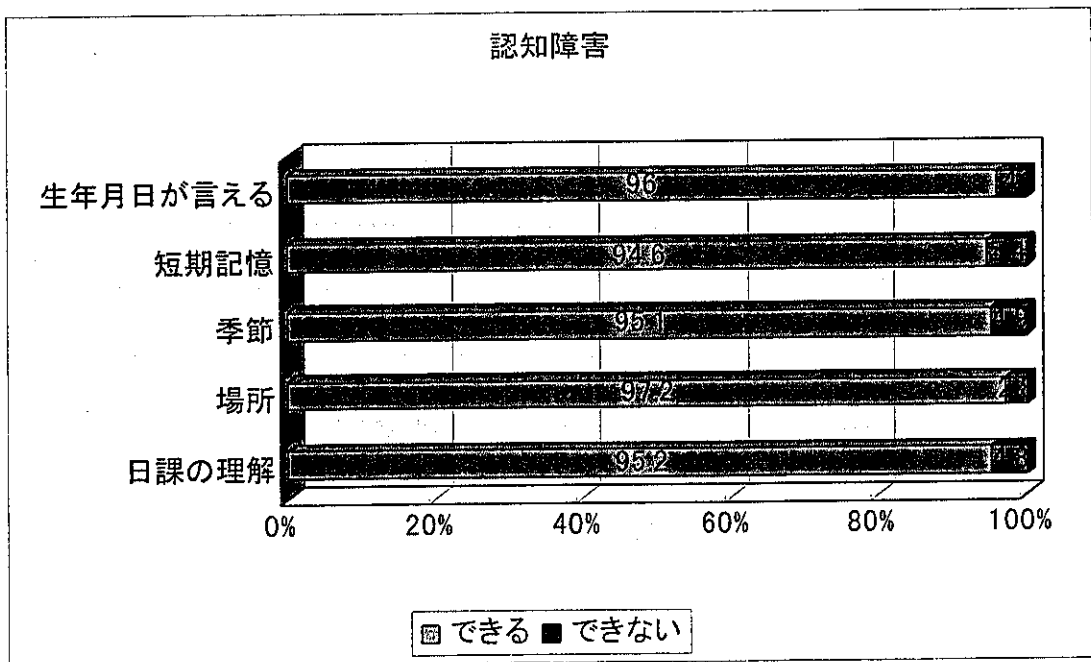


図3-14 「介護状態6点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

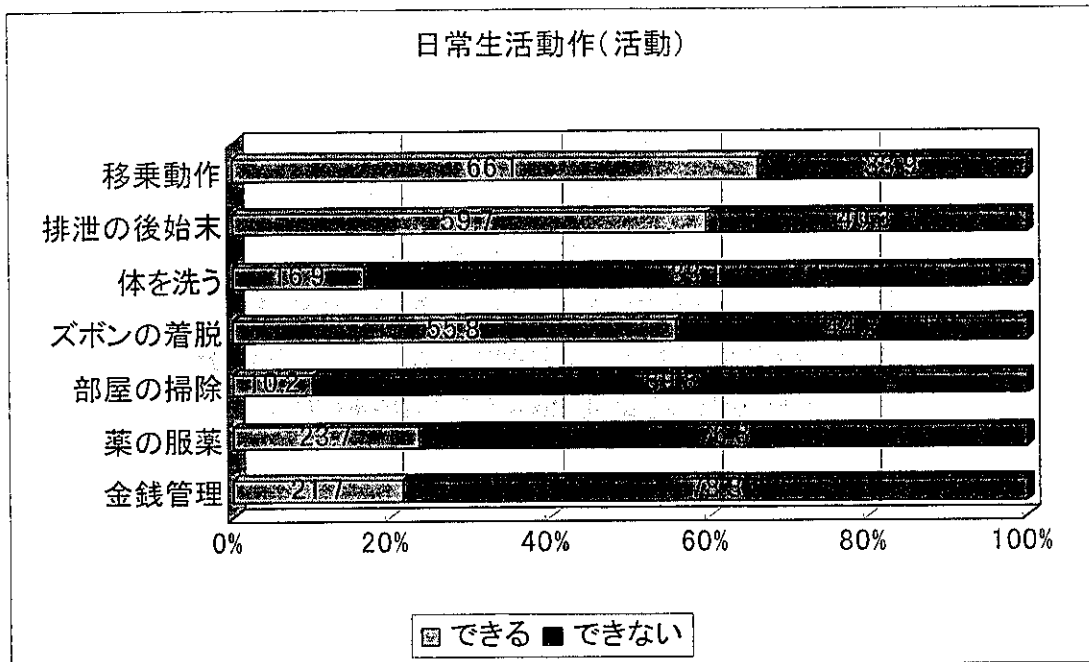


図3-15 「介護状態6点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

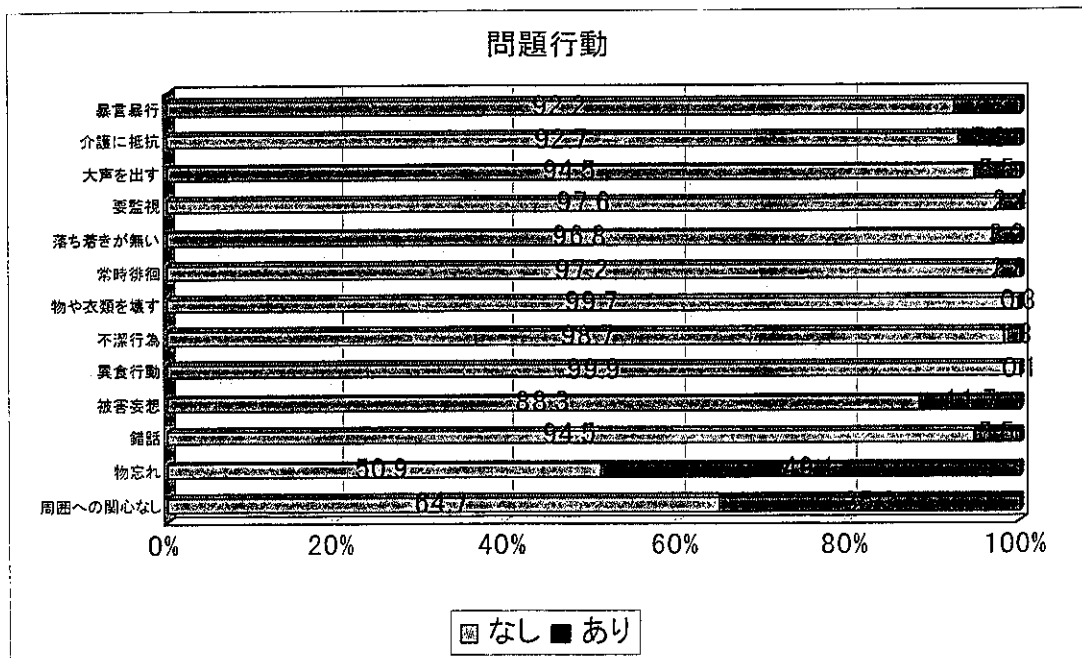


図3-16 「介護状態6点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

③「介護状態9点群」（2,446名）での認知障害、ADL、問題行動における得点の最頻値は、認知障害が「0点」（51.8%）、ADLが「7点」（54.3%）、問題行動が「2点」（47.7%）であった（図3-17～3-19）。それらの得点を加算すると9点で、これは量的介護度に対応していた。ADLに関連する7項目すべての発現頻度は、「5. 部屋の掃除」（「できない」が97.1%）、「7. 金銭の管理」（「できない」が96.1%）、「3. 体を洗う」（「できない」が94.6%）、「6. 薬の服薬」（「できない」が93.8%）、「2. 排便の後始末」（「できない」が79.4%）、「4. スポン等の着脱」（「できない」が77.8%）、「1. 移乗動作」（「できない」が70.9%）の順であった。問題行動において発現頻度が上位2位までに属する項目は、「12. 物忘れがひどい」（「あり」が76.1%）、「13. 元気がなく、ぼんやりしている」（「あり」が59.7%）であった（図3-20～3-22）。

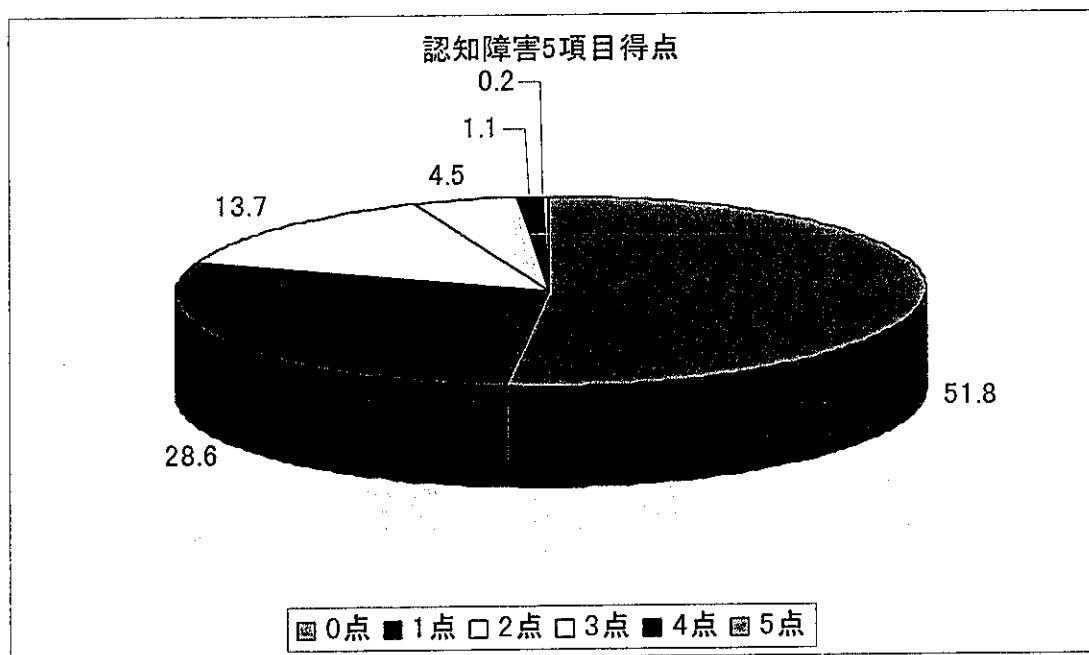


図3-17 「介護状態9点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

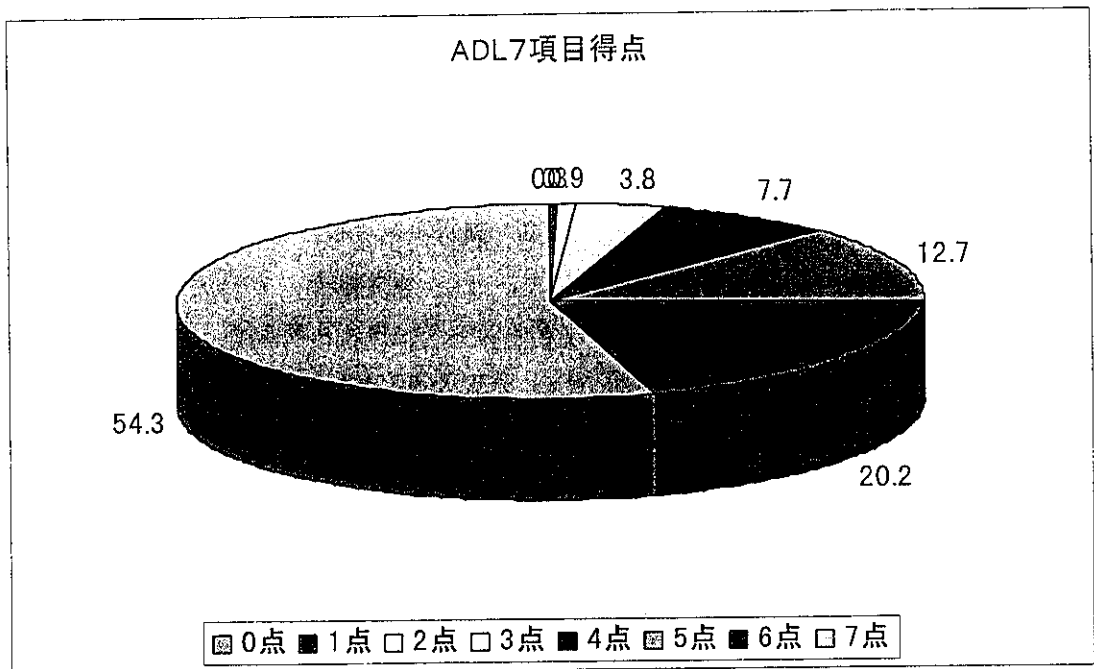


図3-18 「介護状態9点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

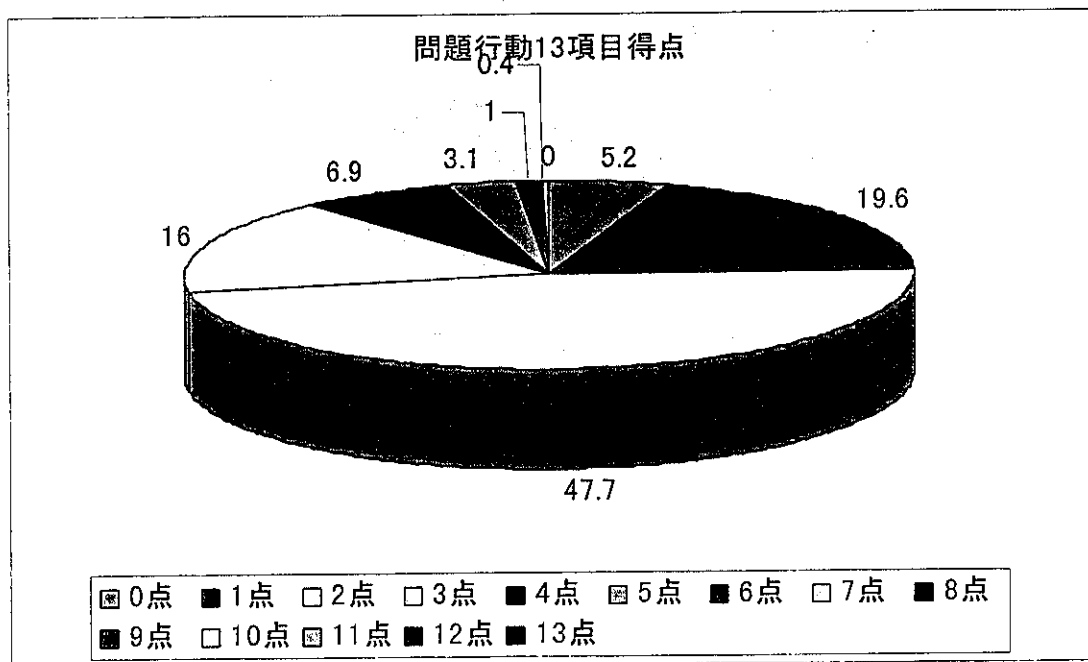


図3-19 「介護状態9点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

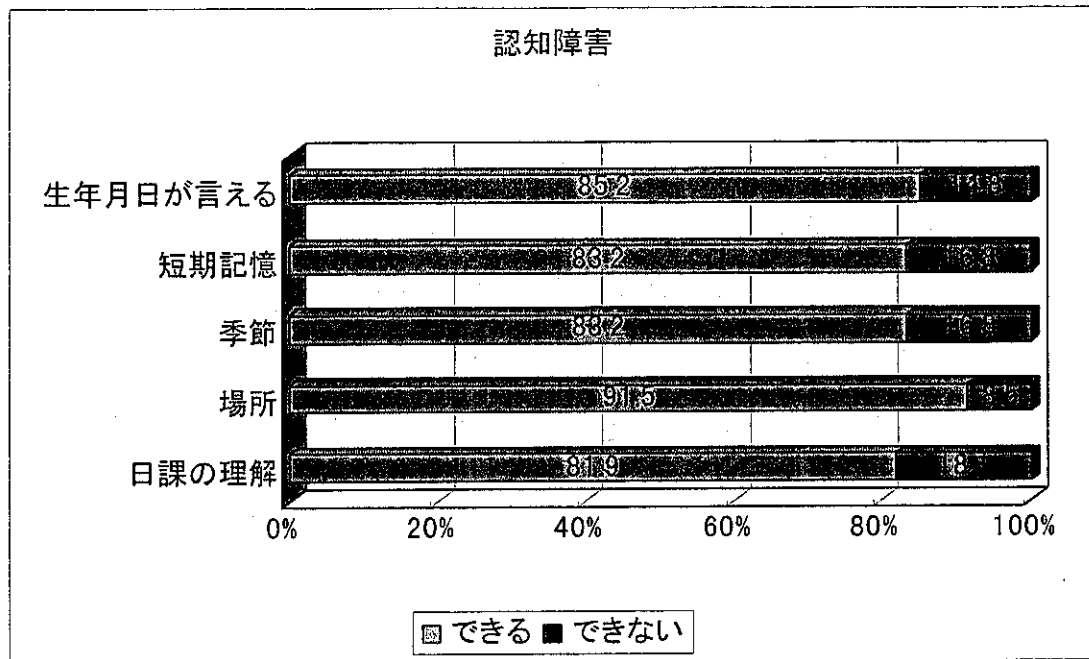


図3-20 「介護状態9点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

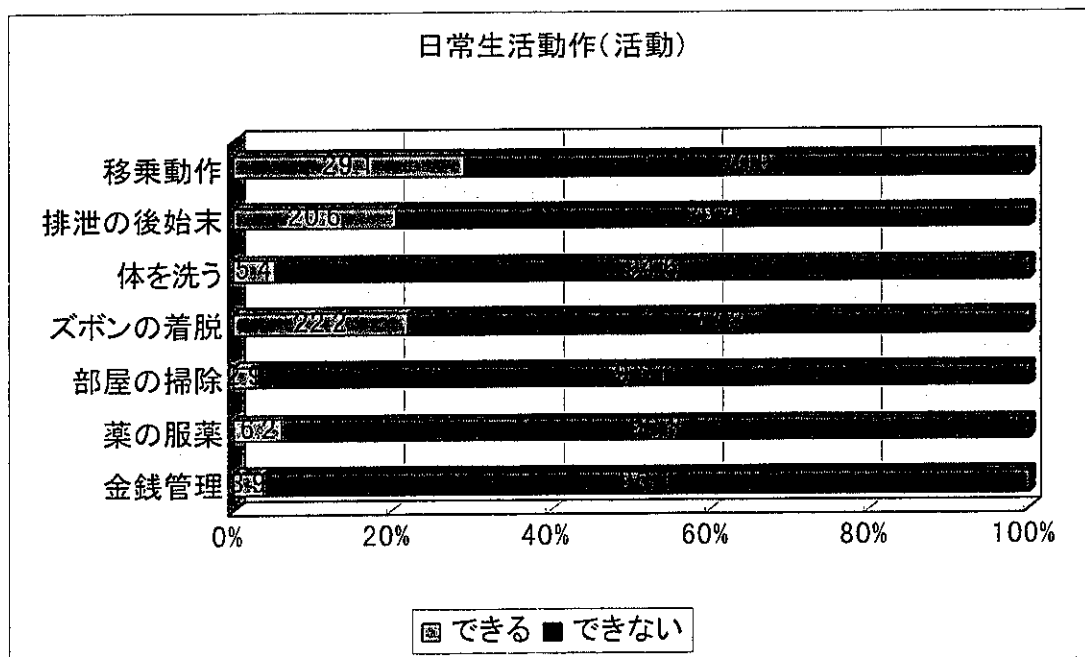


図3-21 「介護状態9点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

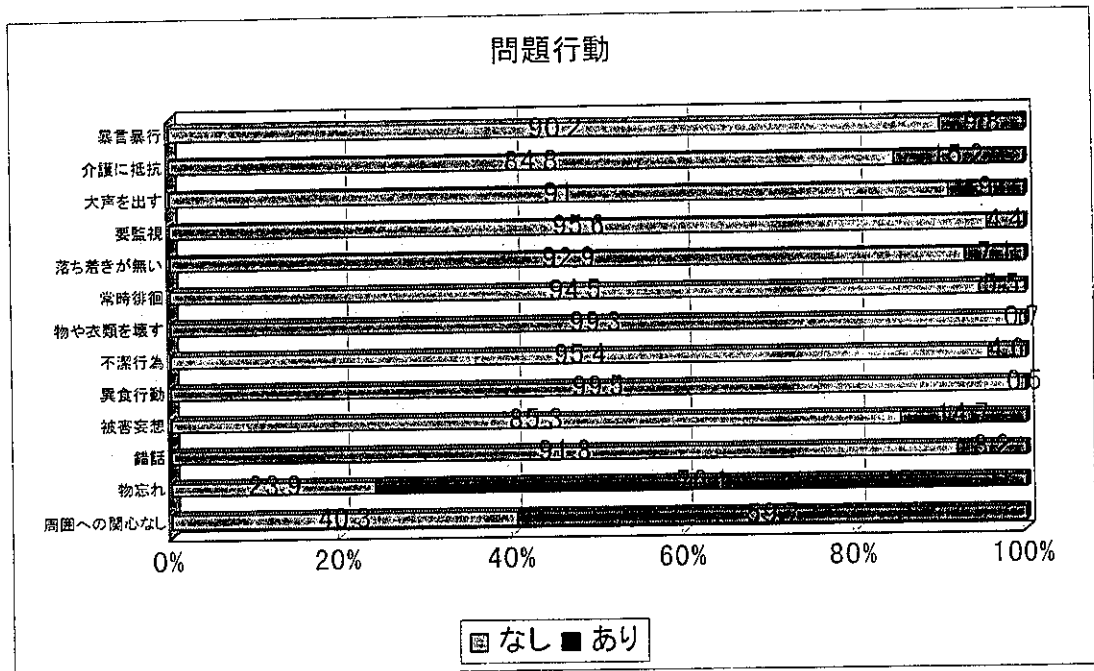


図3-22 「介護状態9点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

④「介護状態12点群」(2,398名)での認知障害、ADL、問題行動における得点の最頻値は、認知障害が「3点」(34.9%)、ADLが「7点」(82.4%)、問題行動が「2点」(34.6%)であった(図3-23～3-25)。それらの得点を加算すると12点で、これは量的介護度に対応していた。認知障害において発現頻度が上位3位までに属する項目は、「5. 毎日の日課を理解することができる」(「できない」が66.6%)、「2. 5分前のことを思い出すことができる」(「できない」が62.8%)、「3. 今の季節を理解することができる」(「できない」が55.9%)であった。ADLに関連する7項目すべての発現頻度は、「5. 部屋の掃除」(「できない」が99.6%)、「7. 金銭の管理」(「できない」が99.2%)、「6. 薬の服薬」(「できない」が98.8%)、「3. 体を洗う」(「できない」が98.1%)、「4. ズボン等の着脱」(「できない」が94.7%)、「2. 排便の後始末」(「できない」が93.5%)、「1. 移乗動作」(「できない」が88.9%)の順であった。問題行動において発現頻度が上位2位までに属する項目は、「12. 物忘れがひどい」(「あり」が80.1%)、「13. 元気がなく、ぼんやりしている」(「あり」が71.1%)であった(図3-26～3-28)。

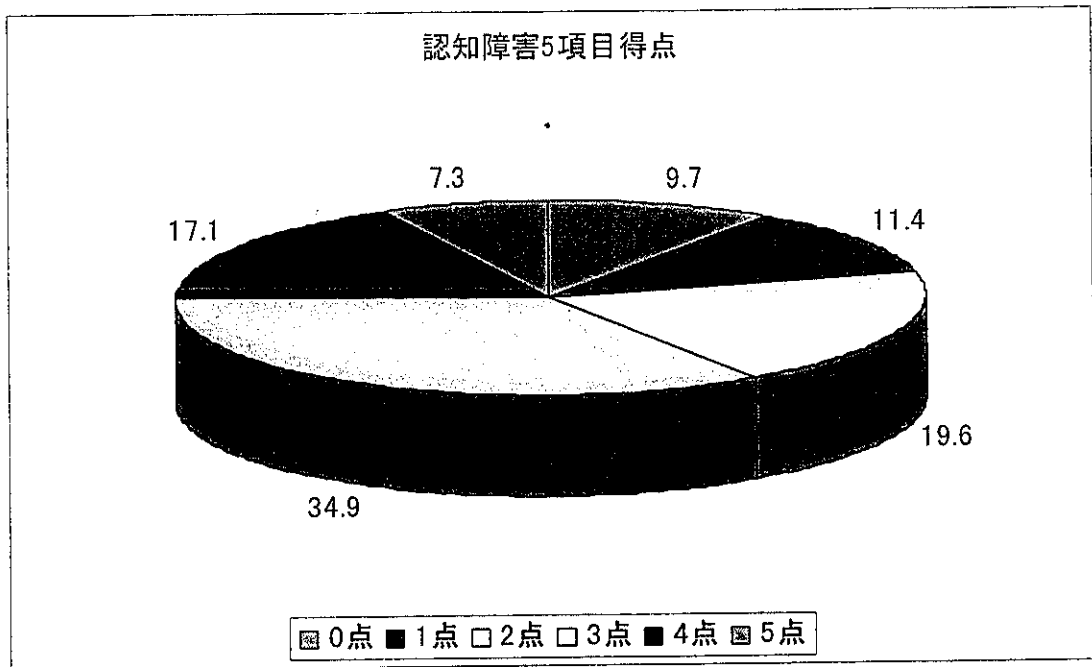


図3-23 「介護状態12点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

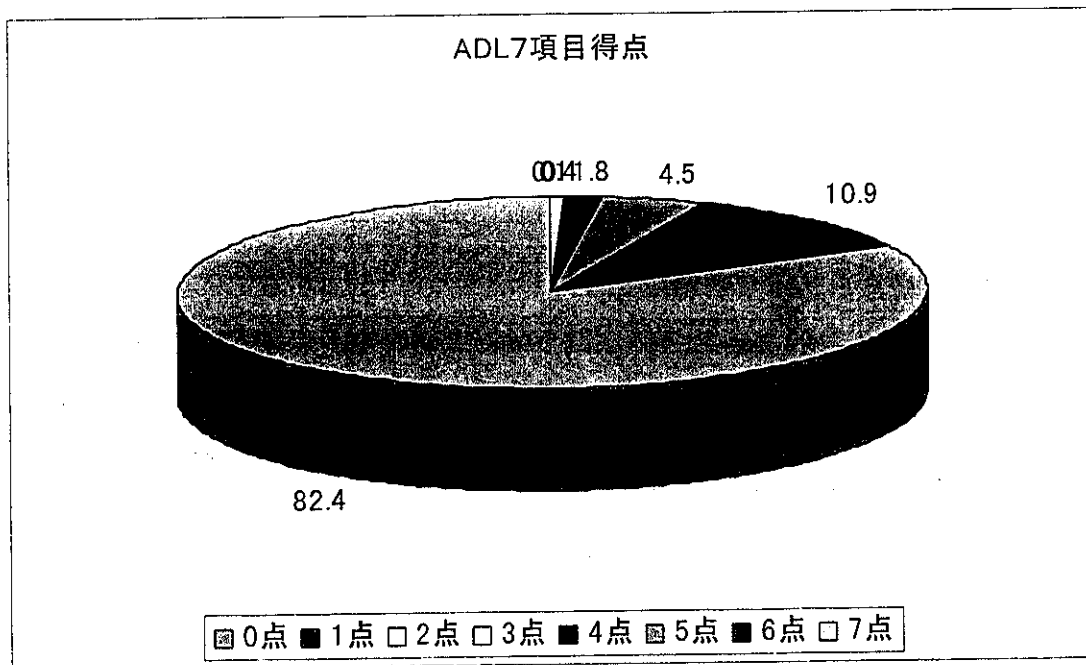


図3-24 「介護状態12点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

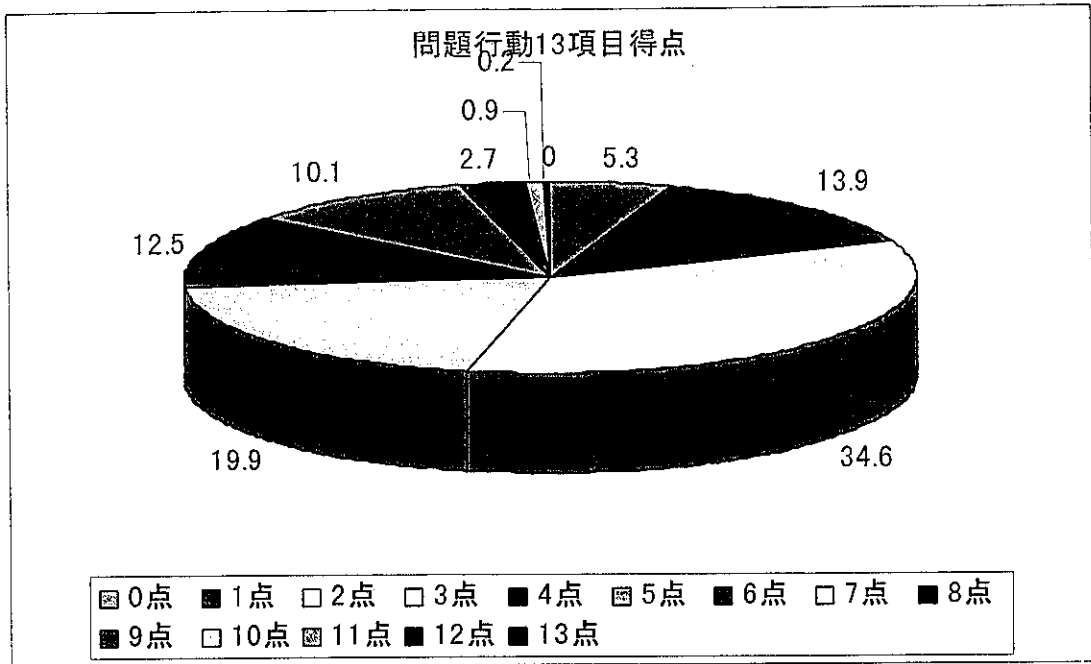


図3-25 「介護状態12点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

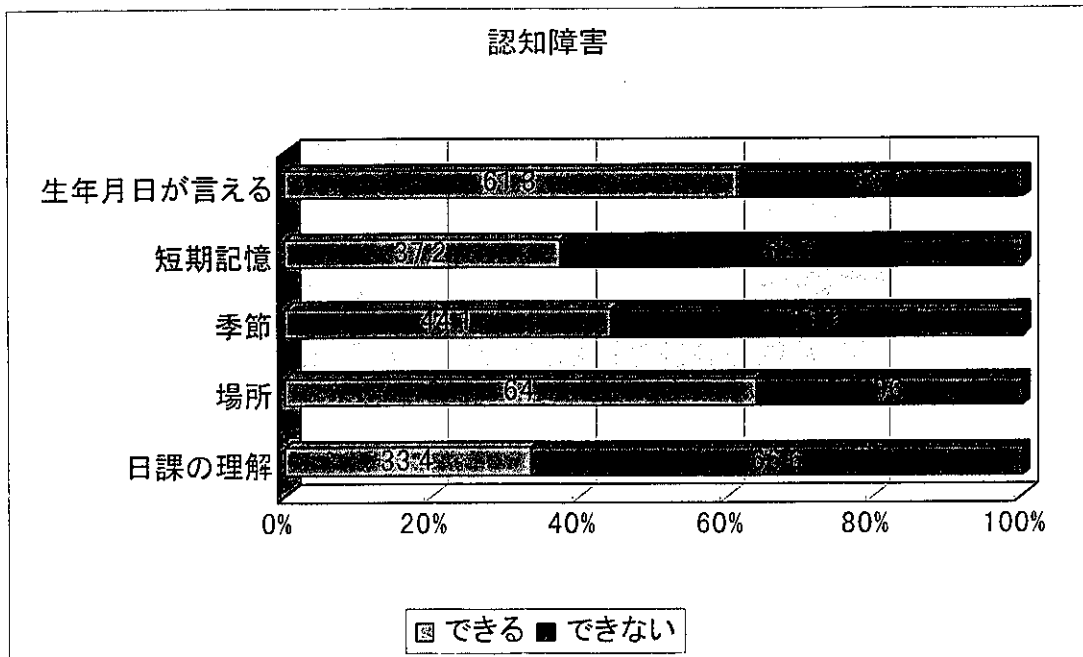


図3-26 「介護状態12点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

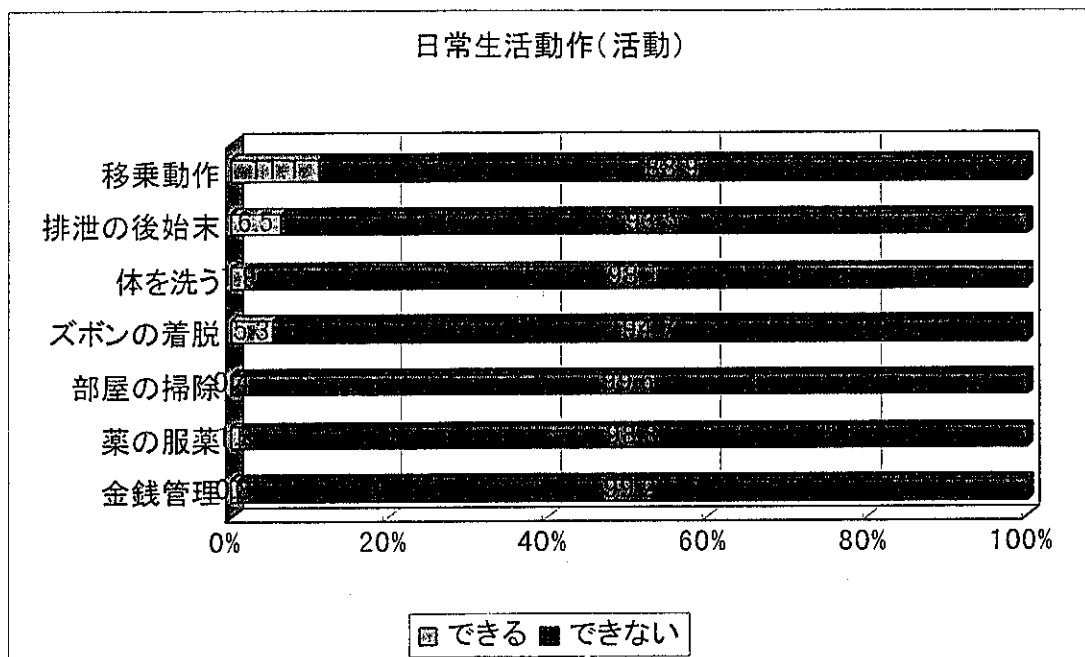


図3-27 「介護状態12点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

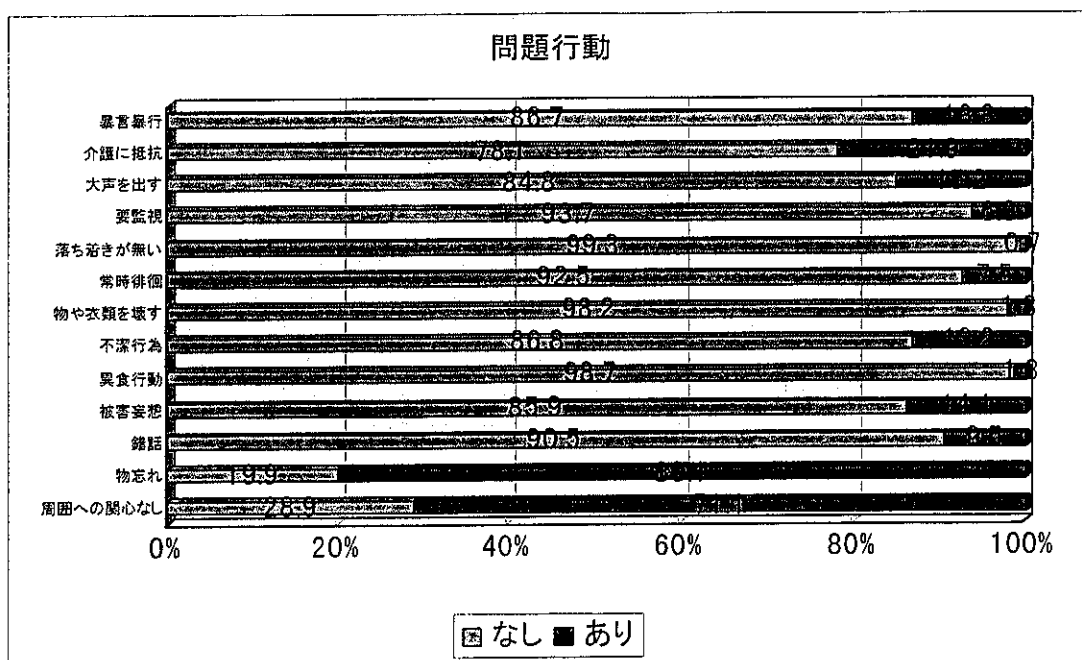


図3-28 「介護状態12点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

⑤「介護状態13点群」(3,091名)での認知障害、ADL、問題行動における得点の最頻値は、認知障害が「5点」(54.6%)、ADLが「7点」(96.2%)、問題行動が「1点」(53.5%)であった(図3-29～3-31)。それらの得点を加算すると13点で、これは量的介護度に対応していた。認知障害に関連する5項目すべての発現頻度は、「2. 5分前のことを思い出すことができる」(「できない」が89.3%)、「5. 毎日の日課を理解することができる」(「できない」が89.4%)、「3. 今の季節を理解することができる」(「できない」が84.7%)、「1. 生年月日を答えることができる」(「できない」が74.9%)、「4. 自分の部屋や、いる場所を答えることができる」(「できない」が71.4%)の順であった。ADLに関連する7項目すべての発現頻度は、「5. 部屋の掃除」(「できない」が99.6%)、「7. 金銭の管理」(「できない」が99.2%)、「6. 薬の服薬」(「できない」が98.8%)、「3. 体を洗う」(「できない」が98.1%)、「4. ズボン等の着脱」(「できない」が94.7%)、「2. 排便の後始末」(「できない」が93.5%)、「1. 移乗動作」(「できない」が88.9%)の順であった。問題行動において発現頻度が上位にあった項目は、「12. 物忘れがひどい」(「あり」が80.1%)となっていた(図3-32～3-34)

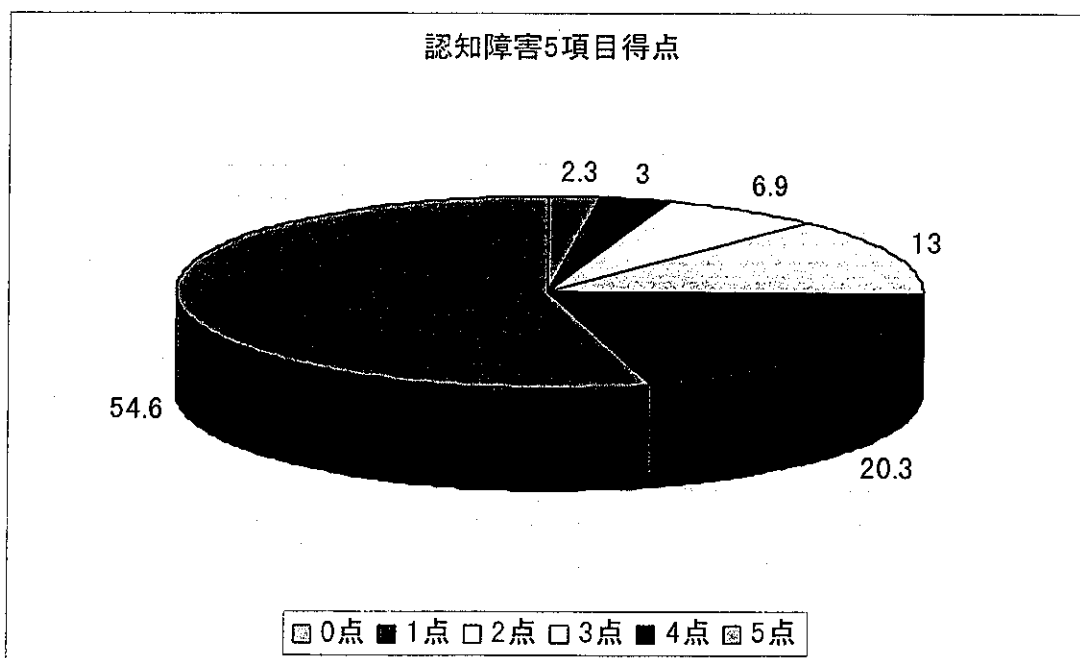


図3-29 「介護状態13点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

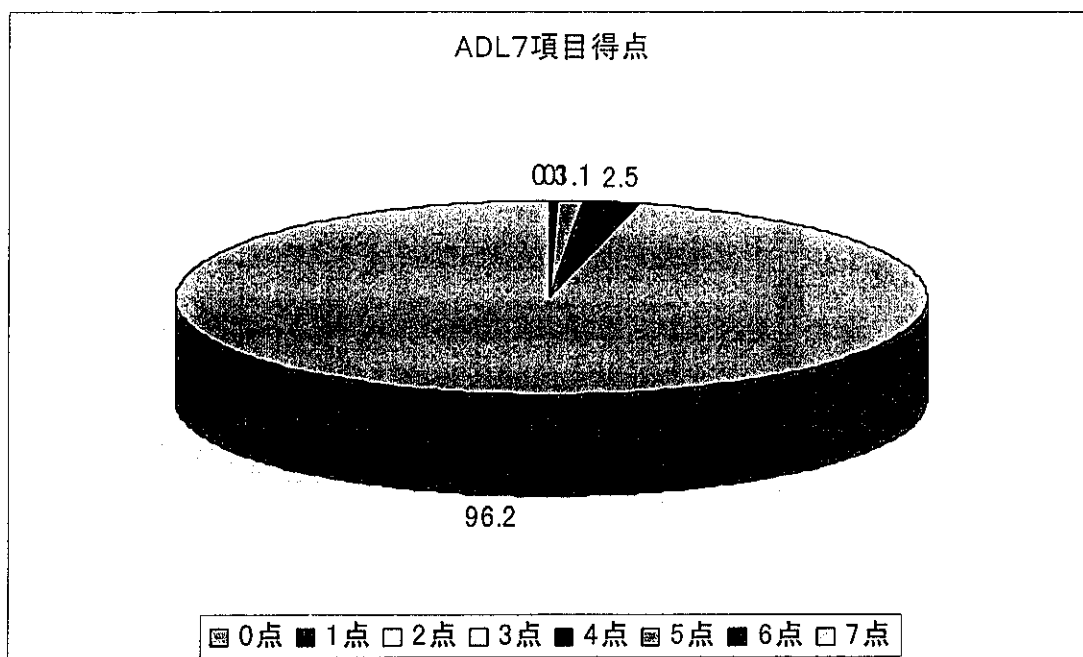


図3-30 「介護状態13点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

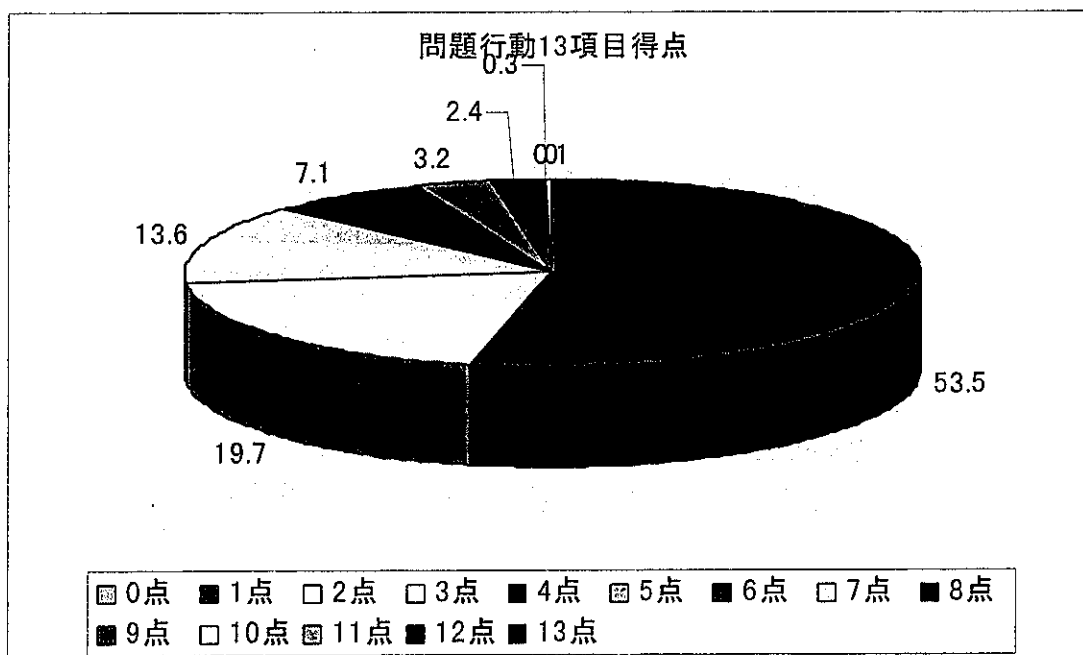


図3-31 「介護状態13点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

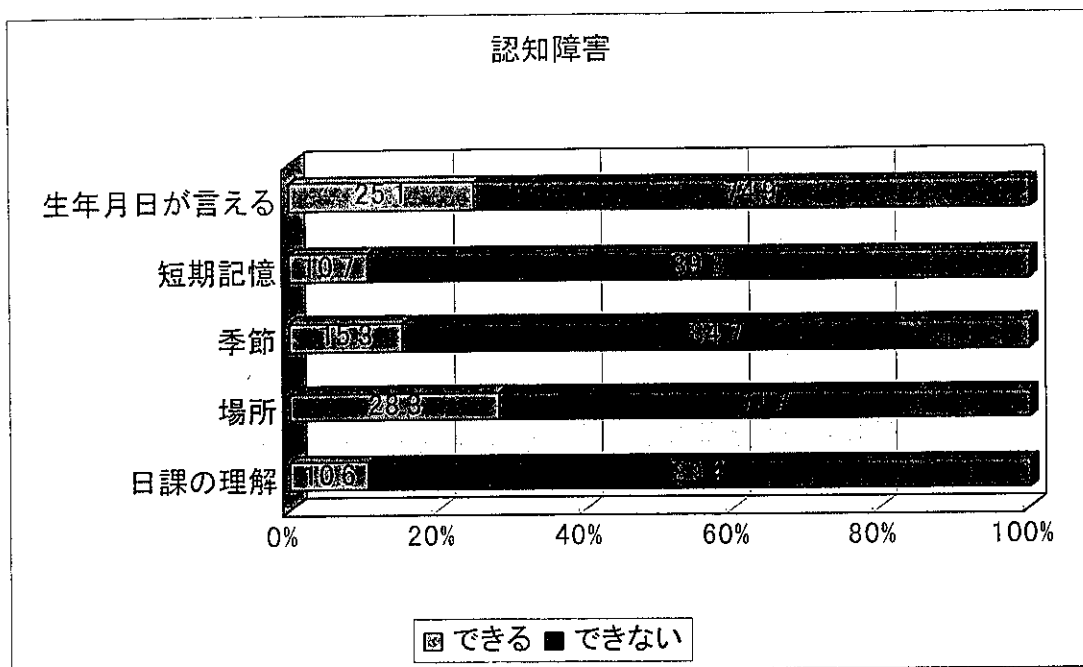


図3-32 「介護状態13点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

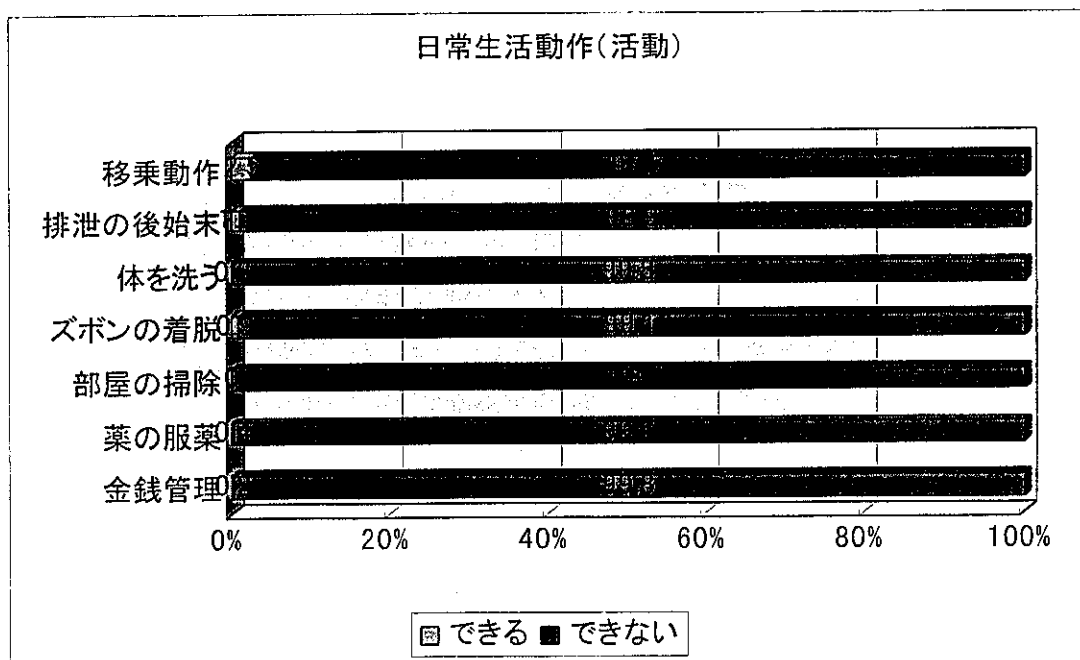


図3-33 「介護状態13点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

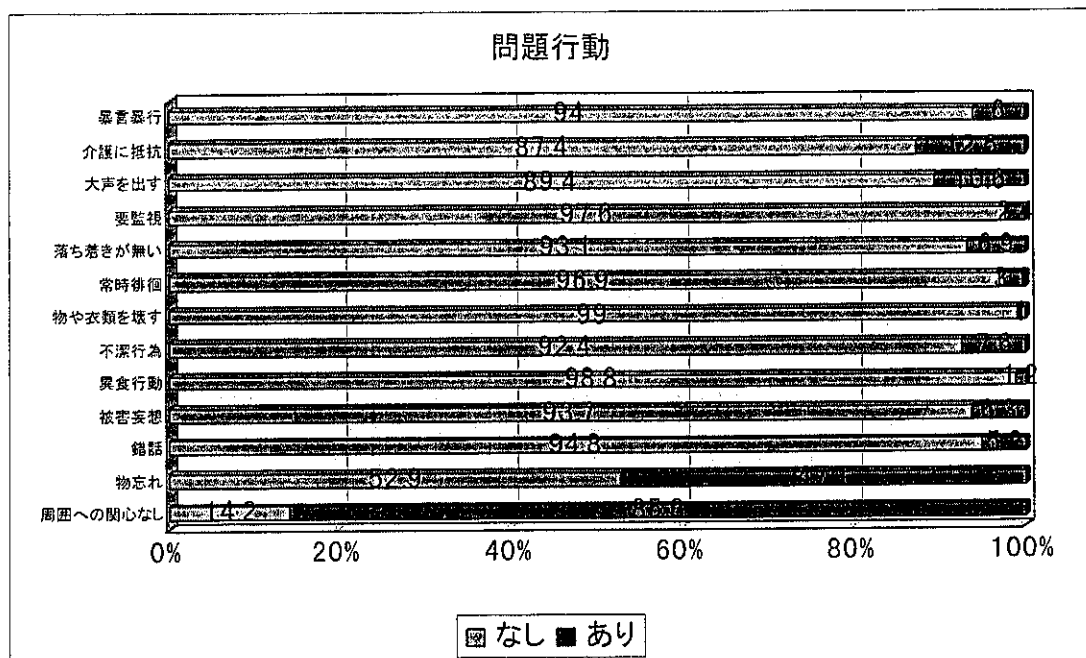


図3-34 「介護状態13点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

⑥「介護状態14点群」(2,266名)での認知障害、ADL、問題行動における得点の最頻値は、認知障害が「5点」(74.0%)、ADLが「7点」(98.1%)、問題行動が「2点」(72.6%)であった(図3-35～3-37)。それらの得点を加算すると14点で、これは量的介護度に対応していた。認知障害に関連する5項目すべての発現頻度は、「2. 5分前のことを思い出すことができる」(「できない」が92.6%)、「5. 毎日の日課を理解することができる」(「できない」が94.7%)、「3. 今の季節を理解することができる」(「できない」が90.7%)、「1. 生年月日を答えることができる」(「できない」が87.6%)、「4. 自分の部屋や、いる場所を答えることができる」(「できない」が82.9%)の順であった。ADLに関連する7項目すべての発現頻度は、「5. 部屋の掃除」(「できない」が100.0%)、「7. 金銭の管理」(「できない」が100.0%)、「3. 体を洗う」(「できない」が100.0%)、「6. 薬の服薬」(「できない」が99.8%)、「4. ズボン等の着脱」(「できない」が99.7%)、「2. 排便の後始末」(「できない」が99.6%)、「1. 移乗動作」(「できない」が98.7%)の順であった。問題行動において発現頻度が上位2位までに属する項目は、「12. 物忘れがひどい」(「あり」が80.2%)、「13. 元気がなく、ぼんやりしている」(「あり」が90.3%)であった(図3-38～3-40)。

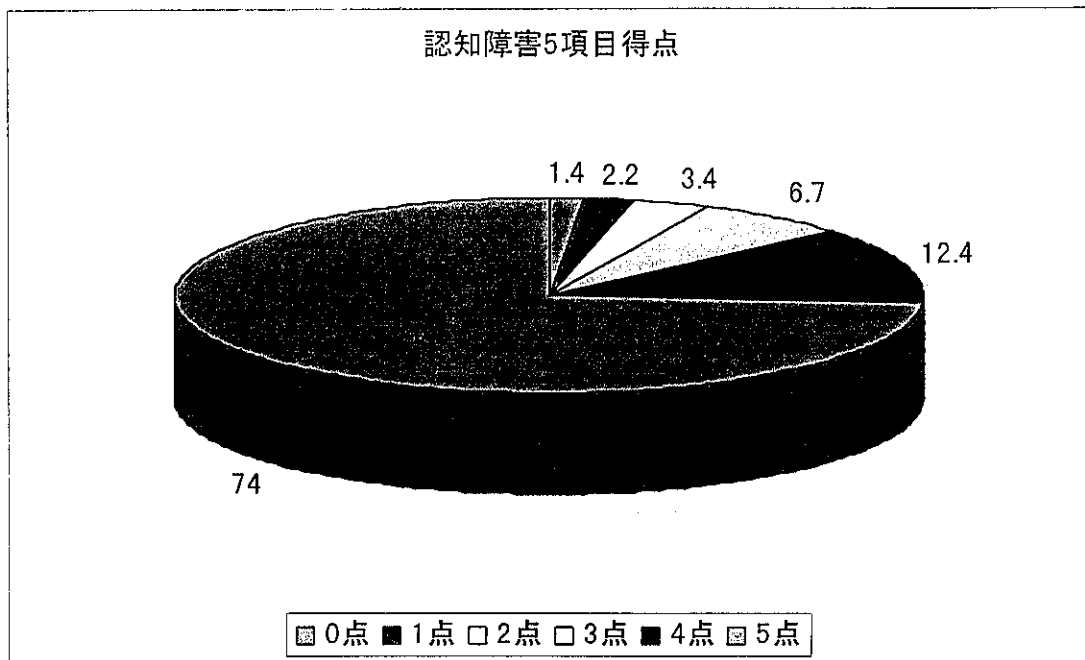


図3-35 「介護状態14点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

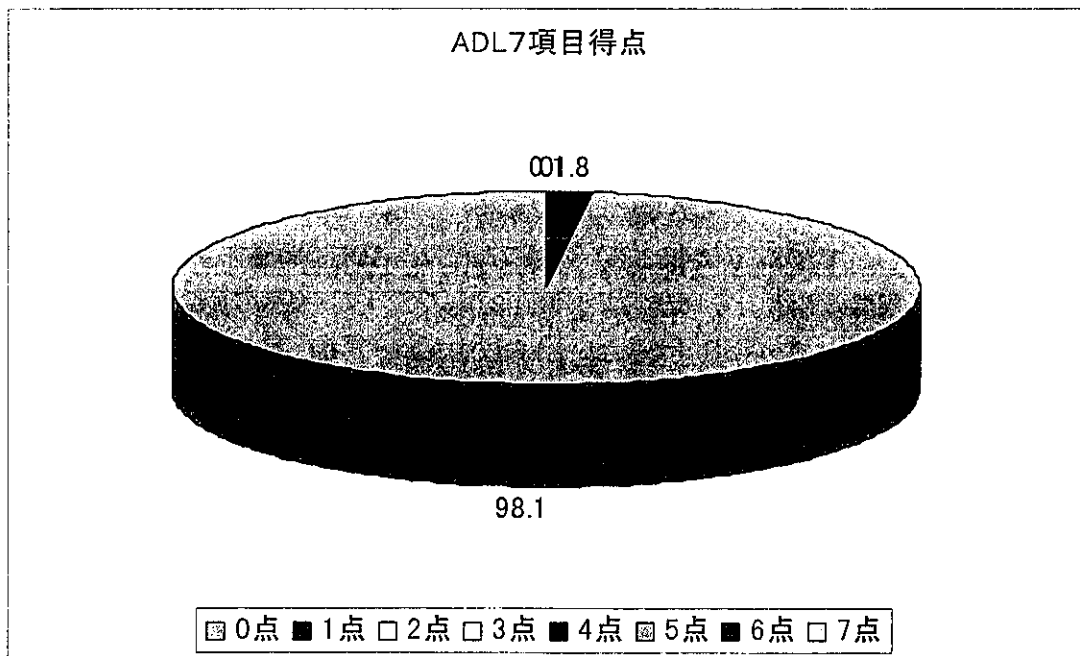


図3-36 「介護状態14点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布